資料１

子育て交流施設「あそびあむ」
これからの運営方針

令和３年２月

舞鶴市

～ 目 次 ～

1. 運営方針の趣旨 ・・・・・・・・ 1

2. あそびあむの現状と課題 ・・・・・ 2

3. 新たな展開における基本的な考え方 ・・・・・ 6

4. 今後の取り組みの方針 ・・・・・ 7

5. 持続可能な運営に向けて ・・・・・ 8

6. 今後の進め方等 ・・・・・・・・ １２

１. 運営方針の趣旨

全国的に、急速な少子化の進行、子ども同士の交流機会の減少、家庭や家族の形態の変化、親の就業の有無、個人のライフスタイルの多様化、地域社会の変化などから、家庭や地域の子育て機能が弱まり、子育てに対する負担感や不安感が増大していると言われています。

こうした社会情勢のもと、本市では平成２７年４月に子育て交流施設「あそびあむ」を開設し、“子どもと多様な世代の大人が共に遊びを体験する機会の創出”、“子育てに関する相談、情報の発信等の実施”を目的として事業を実施しており、市内外を問わず、年間７万人を超える方々に利用されているなど、本市の子育て支援の中核的施設として役割を担っています。

また本年、子ども・子育てに関する施策の方向性をとりまとめた第２期『夢・未来・希望輝く「舞鶴っ子」育成プラン』（令和２～６年度）を策定し、“子どもの笑顔と子育ての喜びがあふれるまちづくり”を政策目標として、“親育ち・多世代にわたる子育てエンパワーメントの向上”、“子どもと健やかな育ちを支える支援”、“配慮が必要な子どもと家庭等への支援”、“身近な地域での子育て支援・青少年の成長支援の推進”の４つの柱を重点施策に掲げ、各種取り組みを進めているところです。

そうした中で、本運営方針は、「あそびあむ」が“子どもと大人が一緒にあそぶ、場所・ところ”という開設当初の目的、意義を踏襲しながら、『夢・未来・希望輝く「舞鶴っ子」育成プラン』に基づき、住民同士の共助・共生による事業の実施をはじめ、あそびのフィールドを「あそびあむ」から舞鶴全体に広げ、地域資源を活かした親と子のふれあい体験や様々な世代と交流する機会の実施など、子どもの豊かな成長と親子の絆を重視した様々な事業を拡充・展開していくため、その運営の一部を見直しし、子どもの豊かな育ちにつながる環境づくりの充実を目指していくものです。

2. あそびあむの現状と課題

(1)設置目的

子どもと多様な世代の大人が共に遊びを体験する機会を創出するとともに、子育てに関する相談、情報の発信等を実施することにより、子どもの健やかな成長に資することを目的としています。

(2)基本方針等

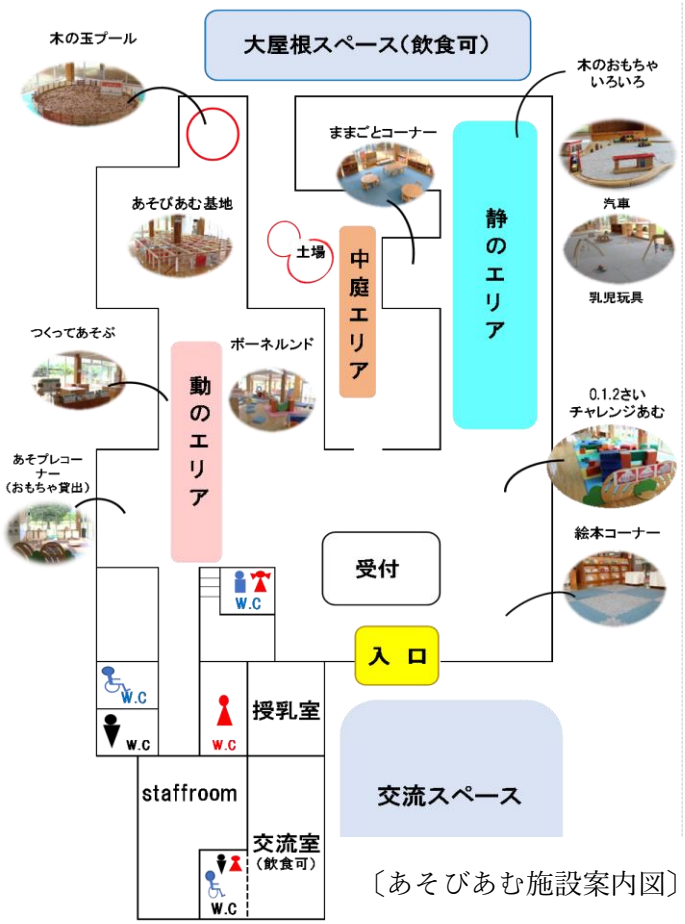
■４つの柱

楽しく遊ぶ	乳幼児のいる家庭が、天候に左右されず遊べる施設
しっかり遊ぶ	遊びを通して学ぶことにより全ての子どもの育ちを支援する施設
いろんな人と遊ぶ	多世代とのふれあい交流、まちのにぎわいづくりに寄与する施設
安心して遊ぶ	子どもの安全面に配慮し、安心して遊ぶことのできる施設

近年、少子化や核家族化が進む中、地域や家庭で異なる年齢の子どもが一緒になって遊ぶ機会の減少、塾や習い事の増加、外遊びへの不安、携帯型ゲームやインターネットの普及などにより、子どもを取り巻く遊び環境が大きく変化してきており、このような社会的影響を受け、本来、様々な体験や「あそび」によって培われる乳幼児期の創造性・社会性・感性・身体能力が育ちにくくなっていると言われています。

「あそび」は人格形成の基礎づくりとなるものであることから、成長・発達段階に応じた「豊かなあそび、すなわち五感を使った体験」により、子どもの心と体、社会性や情緒面などの発達が促進されます。

未来を担う子どもたちに、遊びを通じて健全な発達の援助をすること、その目標の実現のために、親たちへの子育て支援を始め、子どもを取り巻く社会への情報の発信に努めます。



〔あそびあむ施設案内図〕

(3)利用状況

令和元年度は新型コロナウィルス感染症の影響により、利用者が減少したものの、市内外を問わず、６万人の利用がありました。

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
開設数		週 6 日	週 6 日	週 6 日	週 6 日	週 6 日
利用者数		56,249 人	71,550 人	72,224 人	70,919 人	62,250 人
内訳	市内	48,110 人	55,783 人	54,524 人	51,537 人	45,016 人
	市外	8,139 人	15,767 人	17,700 人	19,382 人	17,234 人
平　日		138 人/日	170 人/日	167 人/日	158 人/日	138 人/日
土日祝日		304 人/日	341 人/日	353 人/日	354 人/日	306 人/日

(4)主な事業

・あそび事業・・・館内全体のあそびの空間やプログラムを通して、五感を使ったあそびを提供する。(内容は毎月更新)

・子育て相談・子育て支援情報提供事業　・・・　子育ての悩みについて気軽に相談に応じたり、子育てに関する情報提供を行う。

・あそびの普及・啓発事業　・・・　ニュースレターやインターネットを活用し、あそびを普及。また、乳児・父親・小学生プログラムなどを通して、遊ぶことの楽しさや大切さに気づき、家庭や地域でのあそびが向上するよう啓発の実施。

・定期企画事業　・・・　年に２回、テーマのあるあそびを集め、公開する。
（過去のテーマ：カタチであそぶ・かんじるキモチ・デコとボコ・さかさまさかさ等）

・市民参画事業　・・・　あそびの仕掛けづくりを、舞鶴あそび隊（市民団体）などと協働で実施するとともに、学生やシニアボランティアの参加を促進。

・多世代交流事業　・・・　多世代が交流できるプログラムなどを実施。

(5)主な課題と取り組みの方向

多くの利用者の方々にご利用いただく一方で、次の課題が明らかになっていることから、今後の対応すべき重点的事項として捉え、事業を進めます。

①乳児利用

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
乳児利用	16,886 人	20,711 人	19,652 人	18,257 人	16,093 人
利用割合	30.0%	29.0%	27.2%	25.7%	25.9%

０歳児からの継続的な利用により、子育てに対する負担や不安、孤立感を和らげ「家庭の子育て力の向上」に寄与するためには、特に乳児の利用促進が大切となります。

今後は、保護者があそびや交流を通じて、子どもとの関わり方が学べたり、成長を喜び合えたりするなど、親子ともに自己肯定感が育める事業を実施し、０歳児の全ての子どもが、一度は訪れることができるよう取り組みを進めます。

②多世代交流

子どもの豊かな成長にとって、多様な世代の大人と関わることはとても重要です。

例えば、友達の家で遊ぶ際には、友達の家族と話をしたり、友達の家で過ごす際のマナーを考える、外で遊ぶときには地域の人と会話を交わしたり、時には危ない遊びをして地域の人から怒られる、地域の違う世代の友達と遊ぶなど、子どもはそうした経験を通じて、友達（役割分担や上下関係など）や大人の多様性を知り、周囲の人や環境との関わり方を自然に身につけていきます。

現在、令和元年度では利用者の約 89%が乳幼児の親子の利用ですが、乳幼児だけでなく、多くの世代が支援に関わっていただける“しかけづくり”に努めます。

③恒常的な遊びの環境

「あそびあむ」は開設当初から、木のおもちゃコーナー、絵本コーナー、木の玉プール、土場、の常設に加え、施設内で、作ったり、描いたり、体を使ったりして遊ぶ様々なあそびのコーナーを設けています。また現場では様々な保護者からのニーズに応じて、可能な範囲での改善を重ねているところです。

今後も、より魅力ある施設として維持・発展させていくためには、既成概念に捉われない、ゲームやごっこ遊び、外遊びなどで常に新しい遊びを提供し続け、また遊びに対してスキルをもった人材、体制づくりが必要です。

なお、遊びは危険と隣り合わせです。しかし、危険をなくすこと自体を最終的な目的にしてしまうと遊びの良さが失われてしまいます。利用者ニーズを重視する視点をもって、適切に対応していくことを大前提にしながら、あそびをテーマにした実施主体として、いつもドキドキ・ワクワクする体験を提供する、その責任を果たしていくことが重要です。

④既存施設との連携

「あそびあむ」と隣接する総合文化会館や、今後新設される「まなびあむ」などのほか、既存施設資源などとの相互連携、また市内の様々な地域の方々との連携を促進します。

⑤情報発信

年間７万人を超える利用者がある一方で、現在は、施設内でサービスを提供し、それを子育て世代が利用する状況に留まっています。

「あそびあむ」のさらなる利用促進を図るため、SNS や YouTube などの積極的活用などにより、幅広い世代をターゲットとした情報発信に努めます。

⑥子育て支援者のスキル

子育て支援に関わる基本的な技術や知識に加え、発達や虐待、障害などの専門的知識の習得、傾聴・相談・寄り添う力、ソーシャルワーク、関係機関や団体とのネットワークづくりなど、子育て支援者には様々な技術が求められます。

時代に即した子育て課題、現地・現場での子育て世代へのサポートの充実に取り組みます。

〔あそびあむ中庭の砂場遊び〕

3. 新たな展開における基本的な考え方

(1)共生による子育て支援・世代間の助け合い

・退職後や子育て後の活力あるシニア世代を、「まなびあむ」との連携も図りながら、大切な子育ての担い手として参画を促進する機会の創出。

・運営の趣旨に賛同し、支援、協力いただける方々で構成する“応援組織”の結成。

・学生・生徒が子育ての喜びや命の尊さ、家族の絆の大切さを感じ取り、親の役割を考える機会として、子育て体験や子どもと遊ぶ事業の充実。

(2)舞鶴の資源、風土を生かした子育て支援

・本市の豊かな自然、歴史・文化といった地域資源をはじめ、農業、漁業、地域づくりなどで市内の各地域で活躍されている方々を、子育て支援を通じてつなげる。

・住み慣れた地域で安心して子育てができ、外出しやすい環境づくりや、男性が子育てを共有し、父親であることを楽しめるような社会的気運の醸成を図る。

(3)子どもの社会性の育みの醸成

・子育てが、家族内で孤立しがちな状況にあると言われる中、子どもにとっては自分と考えの違う相手と出会ったり、相手との違いを受け入れたり、時にはトラブルを経験しながら子ども同士で解決する、また、年齢や立場の異なる人々と接することによって、子どもたちの多様な価値観や人との関わり方を学ぶ機会を創っていくことが重要。

・勝ち負けの嬉しさや悔しさ、頑張ったときの達成感、最後までやり抜く力や集中力、子ども同士のコミュニケーション力を、「遊び」を通じて育んでいくよう進める。

(4)ＩＣＴ、情報発信の充実

・一人一台携帯端末が保有されるような状況の中、子育ての情報ツールや相談サービス、子育てシェアなど、ＩＣＴの適切な活用の促進により、子育て世帯の利便性向上等に向けた取り組みや、その情報発信を推進。

・デジタルデバイスに依存しがちな子どもが増える中、デジタルを通してあそびを深め、広げていくことが出来る子どもたちを育てることが重要。

4. 今後の取り組みの方針

約５年を経過する中での「あそびあむ」の現状と課題、新たな展開を図る上で注視すべき視点等を踏まえ、既存の「あそびあむ」がもつ機能を生かしながら、今後の取り組みの方針を次のとおりとします。

多世代の交流を育む「世代循環型」の子育て拠点
～住民同士の共生型子育て支援～

乳児や幼児、児童、生徒、学生、成人、高齢者に至るまで、様々な世代が、「あそびあむ」という場所や子育て支援の取り組みを通じて交流することにより、子どもにとっては社会性の習得、思いやりの心の醸成などができ、児童や生徒、成人にとっては子育て力の向上や社会参加に、高齢者にとっては生きがいや楽しみにつながっていきます。

「あそびあむ」の取り組みを通じて、みんなが成長し合える施設となるよう“住民同士の共生型子育て支援”を目指します。

≪大切にしたい７つのキーワード≫

◇みんなで「あそぶ」

◇みんなで「わらう」

◇みんなで「つくる」

◇みんなで「つながる」

◇みんなで「ささえる」

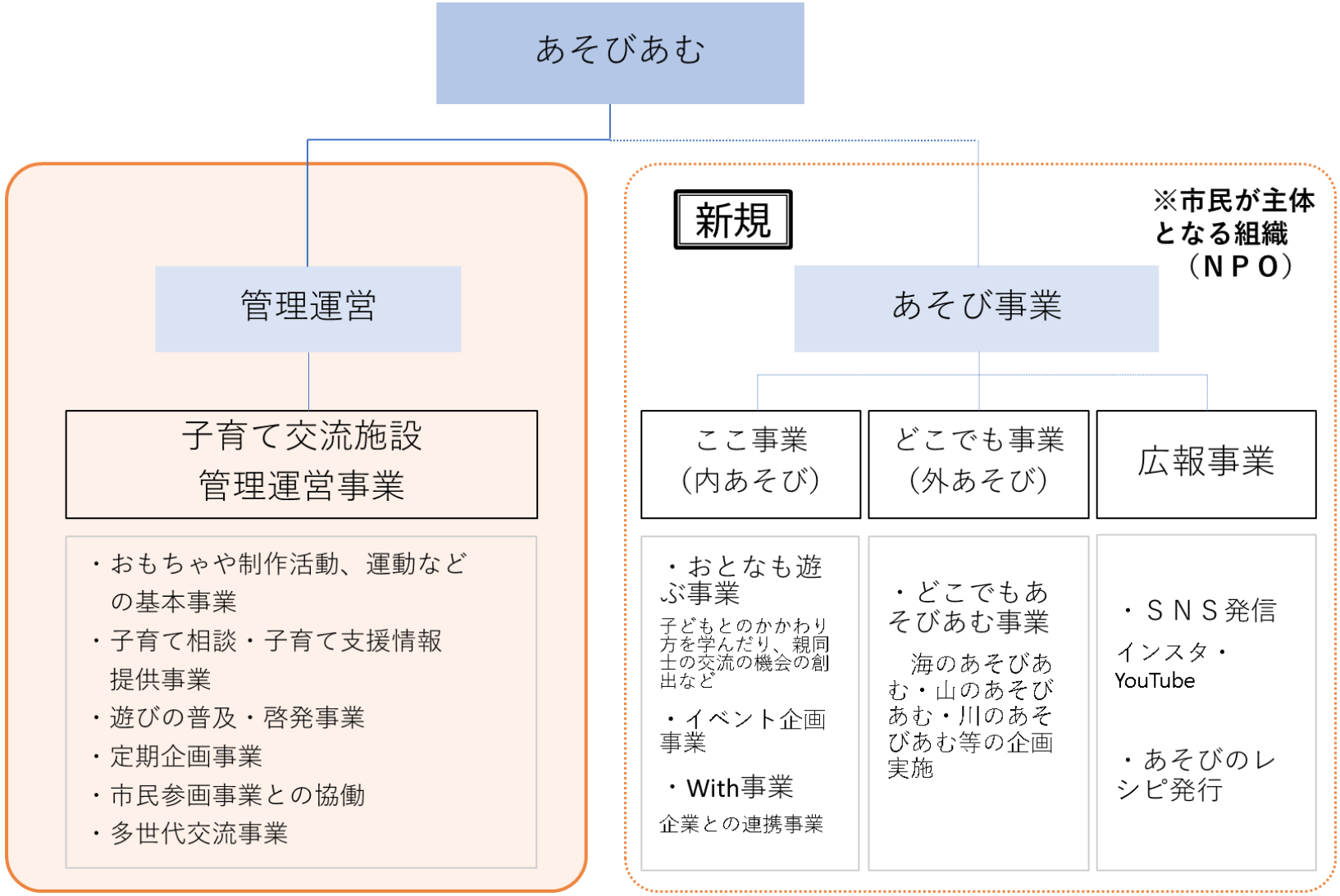
◇みんなで「まなぶ」

◇みんなで「そだつ」

5. 持続可能な運営に向けて

(1)運営体制

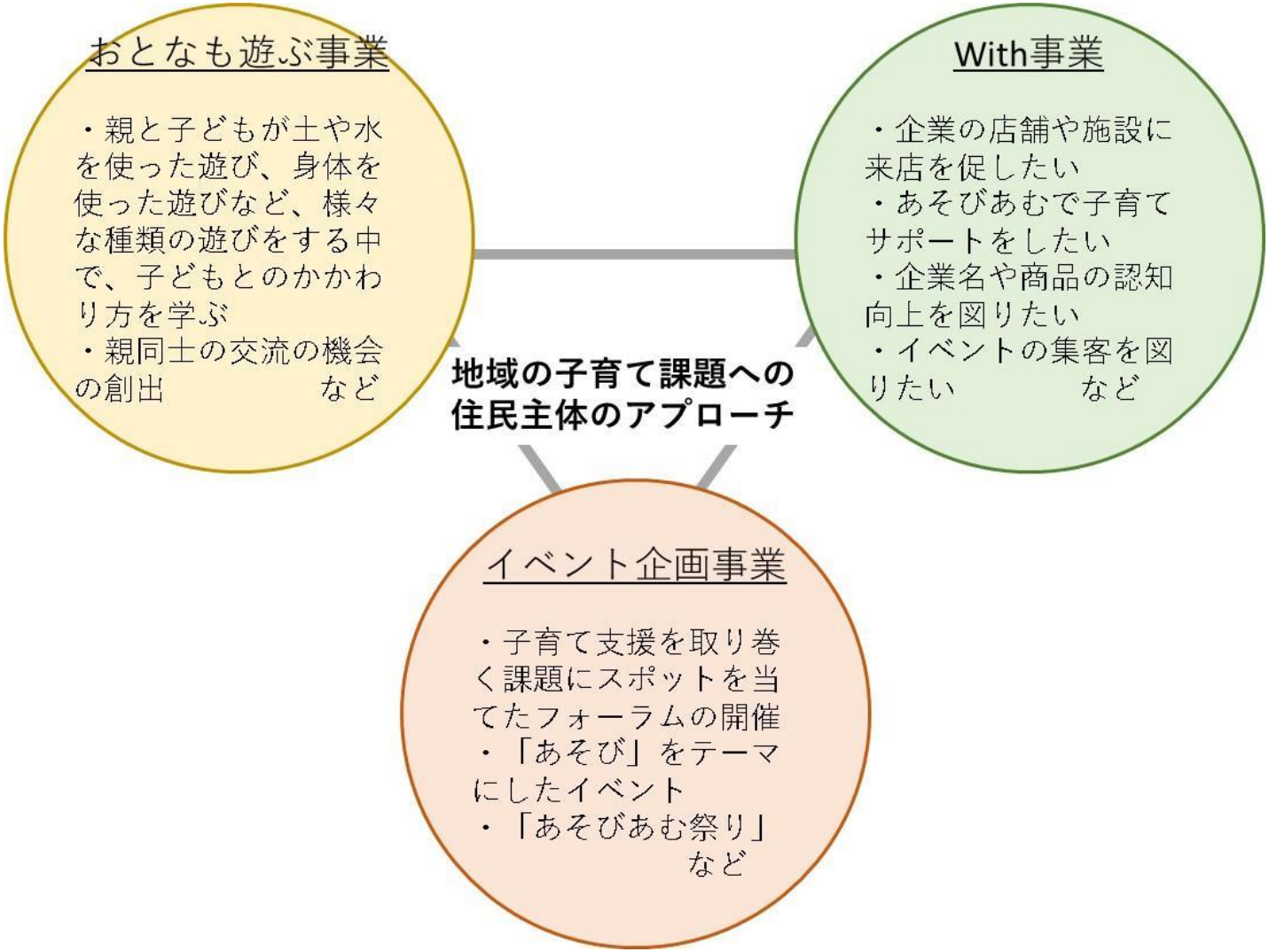
これまで市が直営で実施してきた「あそびあむ」の管理運営事業に加え、時代に応じた様々な子育て課題をいち早く察知し、親や子どもにとって楽しい、魅力ある事業を展開（あそび事業）します。



(2)事業概要

①ここ事業(内あそび)

市内の事業所や関係機関などと連携し、今、子どもに必要なこと、子育てで課題となっていること、お祭りイベントなどの取り組みを、住民組織ならではの発想で展開するとともに、次世代育成の視点からこれから親になる若い世代への活躍の場を創出します。



②どこでも事業（外あそび）

親と子どもが「あそびあむ」を起点として、市内の地域資源やその地域の人と触れ、様々な体験やあそびが行える機会を創出します。また、マイクロツーリズムの要素を意識しつつ、市域全体を「あそびの場」と捉え、出かけていくような仕組みづくりを推進します。（これまで「あそびあむ」のユーザーではなかった小学生や青年、壮年層と一緒に取り組めることを目指します）。

(3)新規事業の企画・立案

この運営方針に掲げる“事業”のほか、“舞鶴市子ども・若者支援会議”委員や「あそびあむ」を利用される方々のご意見・ご提案を聴取する機会を適宜設けながら、継続的に魅力ある「あそび」を企画し、展開していきます。

(4)利用環境の充実に向けた運営資金の確保（入館料の設定）

①考え方

「あそびあむ」は、開設以来、入館料については市内、市外を問わず、全員無料としていました。

しかしながら、「あそびあむ」が将来にわたり持続可能な運営を図っていくためには、一定の財源を確保していく必要が生じています。このため、引き続き国や府の補助金、民間の助成金などを積極的に活用するとともに、施設を利用する方々のうち、市民サービス向上の観点から市民の利用は引き続き無料とする一方、市外の方については利用に伴う施設の原価分について負担いただき、「あそび」の提供の確保・充実をさらに図っていきます。

②入館料

利用者の約３割を占めている市外の利用者については、下記の入館料を徴収することとします。

市外利用者　１人　２００円

（積算）過去５年間の実績と、新規事業実施に係る費用を含めて算定

《式》あそびあむの管理運営に係る総事業費　÷　利用人数(市内・市外全員)

＝１人あたりコスト（市内・市外全員）×市外の利用割合

	総事業費(A) (光熱水費、機械警備、清掃、備品購入、人件費等)	利用人数 (B)	１人あたり (A)÷(B) ＝コスト(C)	市外利用者分 コスト(C) ×30%
令和元年度	42,120,355 円	62,250 人	677 円	203 円
平成 30 年度	42,484,173 円	70,919 人	599 円	180 円
平成 29 年度	38,362,183 円	72,224 人	531 円	160 円
平成 28 年度	43,602,668 円	71,550 人	609 円	183 円
平成 27 年度	42,311,873 円	56,249 人	752 円	226 円

※実施時期　　令和３年７月予定

6. 今後の進め方等

舞鶴市子育て交流施設条例の改正や、関係予算の確保、詳細な事業内容やその一部委託について検討を進めます。

また、本方針を着実に進めるため、市民が主体となるＮＰＯの設立・運営支援のほか、他の住民組織や関係機関、企業など、多様な団体との連携を図り、子育て支援を社会全体の課題として一体的に取り組めるよう進めます。

〔子育て交流広場〕